

文弥人形「野浦双葉座」



設立 昭和54年
拠点 佐渡市野浦
座員 10人
演目例

太平記誉れの仇討ち壇風の段
義経千本桜大物浦碇知盛
ひらがな盛衰記〜お筆筈引きの団
など多数

佐渡島の前浜地域にある、野浦集落を拠点とする文弥人形座です。文弥人形は、のろま人形、説経人形とともに昭和52年に国の重要無形民俗文化財「佐渡の人形芝居」に指定されました。野浦双葉座は昭和54年初代座長臼杵司さんの呼びかけにより賛同者10名で結成されました。人形遣いは浜田守太郎さん、太夫は梶原宗楽さんに師事し、稽古を積みました。昭和55年に幕開きを行い、以後文弥人形の継承、後継者育成に努めています。現在の座員の多くはトキを育むお米の生産者で、半農半漁の暮らしのなか週1回の厳しい稽古に励み、全国各地で500回以上の公演を重ねています。

YouTubeチャンネル「佐渡野浦双葉座・野浦春駒保存会」もご覧下さい。



プログラム・ワンポイント注目点

テーマ：”信仰と芸能” ※信仰と「肉付きの面」については裏面をご参照ください。

鑑賞のポイント①「場面が切り替わるところに注目！」

姑、つまりお婆さんの心の変化を見逃さないように！

どうして内面の変化が起こったのか、前後関係をよく見ておきましょう。

鑑賞のポイント②「表情にご注目！」

嫁のお清がお婆さんにいじめられているとき、

人形の顔は動かないようにできているのですが、遣い手の動かし方で

顔に悲しさが表れるようにみえます。

ワークショップ・・・今日登場した文弥人形に触れて動かしてみましょう！

キーワード集

れんによしょうにん

蓮如上人 浄土真宗の宗祖・親鸞聖人から数えて第8世宗主・真宗大谷派第8代門主。室町時代の本願寺中興の祖として蓮如上人と尊称されています。文明3年（1471）越前吉崎に**吉崎御坊**を建立し、布教の拠点としました。

ろくじみょうごう

六字名号 蓮如上人は吉崎で民衆にわかりやすく教えを説き、阿弥陀仏への帰依を表す「南無阿弥陀仏」の六字（六字名号）を記した紙や布を渡しました。この六字は阿弥陀仏からの**”必ず救う、まかせなさい”**というメッセージでもあります。六字名号を唱えることで極楽往生できるとされました。真宗では六字名号の掛け軸を家庭における本尊として祀るケースがよくあります。

ぜったいたりき

絶対他力 他力とは阿弥陀仏の本願（阿弥陀仏の慈悲の力）に頼りなさい、という意味です。**”絶対”**という強調語がつき、自力で（自らの力で善行を行い）成仏に近づけるなどと錯覚するのではなく、信心も阿弥陀仏の慈悲の力により自ずと発するものであるから、すべてを阿弥陀仏にゆだねなさい、救いはすべて阿弥陀仏の力によるものです、という教義の概念を表します。

にくづきめん

肉付き面 身体についたものが離れなくなることを**”肉付き”**という言い方をします。アンデルセンの「赤い靴」もその一つですが、日本では「面」のお話が多いです。代表的なのが、寺参りする嫁を信仰心のない姑が恐ろしい面で脅して罰を受けるといふ、浄土真宗に伝わる縁起「嫁威肉附面」です。他にも本妻が後妻を面で脅すお伽草子の「磯崎」、一部の「酒吞童子」の話などがあります。能楽でも奈良豆比古神社の狐面はとれなくなると言い伝えがあります。面は神が宿るもの、呪力を持つものという考えが日本では特徴的です。

信心深い嫁の寺参りを妨げるために、姑が面をかぶって脅す、という話は「蓮如上人絵伝」的一幕にあります。台本は36段に分かれ、絵は1段2話で、11段22話となっています。吉崎御坊願慶寺（福井県あわら市）では「蓮如上人絵伝」が、3月下旬～4月上旬に行われる蓮如忌に蓮如上人を偲ぶため、報恩講における親鸞の絵伝と同じように奉懸され読みあげられたり、絵解きが行われたそうです。絵伝は北海道から鹿児島県まで144点の所在が確認されており、愛知県36点、石川県に21点、福井県14点、滋賀県13点、全体の約65%が東海地方と北陸地方に集中しているそうです。

人形芝居や講談、落語などは、仏教の説教から物語が作られることが多く、芸術や芸能は宗教との結びつきを抜きにして考えることはできません。それらは民衆にとっての楽しみでもあり、信仰と娯楽の接点に今回の「嫁威しの場 肉付きの面」は位置付けられます。佐渡では「日本昔話記録5 新潟県佐渡昔話集」（1973 三省堂）に肉付き面の話が収録されています。

